

「県産木材利用推進プロジェクト」

公共建築物利用技術セミナー開催

・平成 28 年 2 月 4 日(木)13:30～ ・グランデはがくれ

～セミナー内容～

テーマ①「200年の森プロジェクト」講師：太良町森林組合 代表理事組合長 村井樹昭 氏

テーマ②「木材BP材TKS構法について」講師：日本住宅パネル工業協同組合西日本支社

「200年の森プロジェクト」※佐賀新聞掲載記事より抜粋

藤津郡太良町の町有林の一部で、樹齢200年のヒノキやスギの森を育てていこうという「多良岳200年の森」の取り組みが始まった。伐採の標準的な樹齢は40～50年で、全国でもヒノキの人工林で200年を超えるものはほとんどない。木材価格が低迷する中、高級材として希少価値が生まれ、高価格での販売が期待できる。何より、森林の持つ公益的機能を実感でき、モデル林として県内外に情報発信する意義は大きい。

「200年の森」は太良町が事業主体で、町森林組合が管理する。町有林1542ヘクタールのうち標高約500メートルにある2つのエリアの総面積約51ヘクタールを指定した。

今回のように町と森林組合、地域住民が連携し、県もバックアップしていく事例は全国でも見あたらない。もともと多良山系の木材は枝打ちが徹底され、県内トップクラスの評価を得ているが、この壮大な取り組みは県内はもちろん、日本の林業にもインパクトを与えよう。

村井さんは今、通常樹齢50年で出荷する木を200年育てようという多良岳200年の森という新たな挑戦をしている。

今この森には、樹齢50年の木が4万本以上あるが樹齢200年の木を約5千本育てる計画。息の長い計画だが、より高値がつく木材を生産し林業を守っていくのが狙いである。



「木材BP材TKS構法について」※HPより抜粋

■日本初！！重ね材で国土交通大臣認定

杉BP材は、杉による重ね材として国内初の国土交通大臣認定を頂いています。

建築基準法第68条の26第1項(同法第88条において準用資する場合も含む)の規定に基づき、同法第37条第二号の規定に適合しています。

【認定番号】 : MWCM-0019

【認定した構造方法又は建築材料の名称】：木質複合軸材料 スギBP材(重ね)

■杉材をさらに強く生まれ変える圧着合梁材

杉の製材品は断面の大きさが限られ、柱の曲ヤング計数が低いいため、在来伝統的な軸組工法への活用が限定されています。大空間、大架構を容易にするためには、製材品に手を加え、経済面でも材料強度面でも加工の容易さでも集成材と同等な品質を持つエンジニアリングウッドの開発と、その利用方法を開発したものです。

■TKS構法はココが違う！！

杉BP材のTKS構法は一般的な高強度のS、RC造とはこんな違いがあります。

- 自重が軽い為、基礎工事が軽減
- 鉄筋がエポキシ樹脂及び木材で被覆されるため、塩害に強い。
- 結露しないため、腐蝕しない。
- 金物が露出しないため、意匠性に優れている。
- 施工後、ゆるみやズレが生じない。

